

就任の挨拶

山田 丈夫会長・木村 良成幹事

山田 丈夫会長

東京お茶の水ロータリークラブの会長を引き受けさせて頂きました、山田でございます。

ロータリー歴は21年になりますが、2015年から2023年4月まで2期8年間、千代田区議会に在職しており、その間ほとんど例会に出席できませんでした。

自分の中では出席が叶わない心苦しさも感じていたところ、皆さんから議員は究極の奉仕活動であるから頑張ってくださいと励ましの言葉を頂きました。

会員の皆様の心遣いに感謝しております。

昨年の秋ごろ前会長の海江田さんや他の会員の方からも会長をとという話を頂き、いろいろと考えまして、お茶の水ロータリークラブのお役に立てればと承諾したわけですが、人前で話すことが苦手な私にとってこれは大きな挑戦であります。どうか、ご指導頂き温かく見守って頂ければと思っております。

さて、今年度の基本方針としましては

- ① 楽しい例会で出席率向上を目指します
- ② 活気あるお茶の水ロータリークラブを目指します
- ③ 炉辺会議（少人数でグループを作り）を復活させて今後の課題について議論して頂き、会員相互の親睦と奉仕活動への心の育成を目指します

そして、会員の皆様に話し合って頂きたいのは

- 財務体質の改善として現在行っている奉仕活動の見直し
- 会員増強について
ラーニングファシリテーターの若林さんより「もっと元気なクラブになろう」とクラブ強化や会員増強のための「オープン例会成功のための10のヒント」を以前皆様に配布させて頂きました。我がクラブに適している項目など議論して頂こうと考えています。

クラブの活性化には、会員一人ひとりの積極的な参加と協力が重要です。

ロータリーが好きで、意欲と情熱あふれる木村幹事と共にしっかりと一年頑張りますので皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

木村 良成幹事

普段、小生は3分以上の話は「お説教」と判断しているため控えるようにしております。しかしながら、本日は皆様にご理解いただきたいことが一つあり、筆舌に尽くしがたい体験ではありますが、お話しさせていただきたく存じます。先日、名簿を拝見したところ、会員の皆様の3分の1ほどが、令和元年の台風15号の折に私の身に起こった出来事をご存じでないことがわかりました。

話は、令和元年（2019年）の台風15号災害に遡ります。千葉県が甚大な被害を受けた際、私は災害復旧支援のボランティアとして現地へ向かいました。母親が千葉

県市川市の出身という縁に加え、現地の仲間からの要請に応えたものでした。9月11日（水）、グランドパレスでの例会を終えるとすぐさま作業着に着替え、被災地で不足していた水を水缶で200リットルほど調達し、被害の大きかった鋸南町に入りました。現地は電気も水道も寸断され、携帯電話の電波もほとんど通じない過酷な状況でした。翌12日（木）、私は被災家屋の屋根に上り、吹き飛んだ屋根を覆うためブルーシートを張る作業に従事しておりました。しかし、昼食に食したそうめんによる急激な塩分摂取が影響したのか、午後1時半頃、屋根の上で熱中症を発症し、一瞬で意識を失い、約6メートル下のアスファルト上に落下してしまいました。

ドクターヘリで君津中央病院へ緊急搬送され、幸いにも1時間以内に治療を受けることができましたが、全身を強打した状態は凄惨を極め、医師からは「余命3日」と宣告されました。それから10月3日（木）までの約3週間、私は意識不明のまま生死の境をさまよいました。その間、かなり強い成分を含む強力な多くの薬物を投与され、絶えず悪夢に苛まれました。当初より非喫煙者であったため肺の状態が非常に良好だったことが幸いし、気管切開手術を経て、かろうじて命をつなぐことができました。後に聞いた話では、当時、台風関連で同病院に緊急搬送された133名のうち、生きてICUより一般病棟へ移ることができたのは、私を含めわずか2名だったそうです。まさに「九十九死に一生」を得て、奇跡的に生還したのでした。

ヘルメットを着用していたおかげで最悪の事態は免れましたが、身体には深刻な後遺症が残りました。頭蓋骨折、左目は視神経の損傷により動かなくなり物が二重に見える複視、奥歯の破折、14箇所及ぶ肋骨骨折、そして片肺の損傷。特に左手は粉碎骨折し、自身の骨盤から骨を移植して再建しましたが、今なお可動域は制限されたままです。当初は1年後の社会復帰も危ぶまれましたが、予想を上回る速さで回復し、意識が戻ってから1ヶ月も経たず10月31日（木）にリハビリ専門の永生病院へ転院することができました。

しかし、この大事故と治療のための大量の薬物投与は、私の体質を大きく変えました。それまでなかったアレルギーを発症しやすくなったのです。小麦アレルギーが残ったほか、アルコール類は最初に口にした種類しか受け付けなくなりました。最近も、処方された風邪薬の副作用で肝炎を発症するなど、人が通常起こさないようなアレルギー反応が突然現れることがあります。

命と引き換えに残ったこの体質により、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、何卒ご寛恕いただきたくお願い申し上げます。この助けられた命で、今後も皆様のために、そして社会のために、誠心誠意ご奉仕申し上げる所存です。

最後に、何度も君津中央病院（千葉県木更津市）と永生病院（東京都八王子市）にお見舞いに来ていただいたのは、故斎藤雅夫会員でした。多くの励ましと激励のお言葉をいただきましたことを心から感謝するとともにこの場で御礼申し上げます。